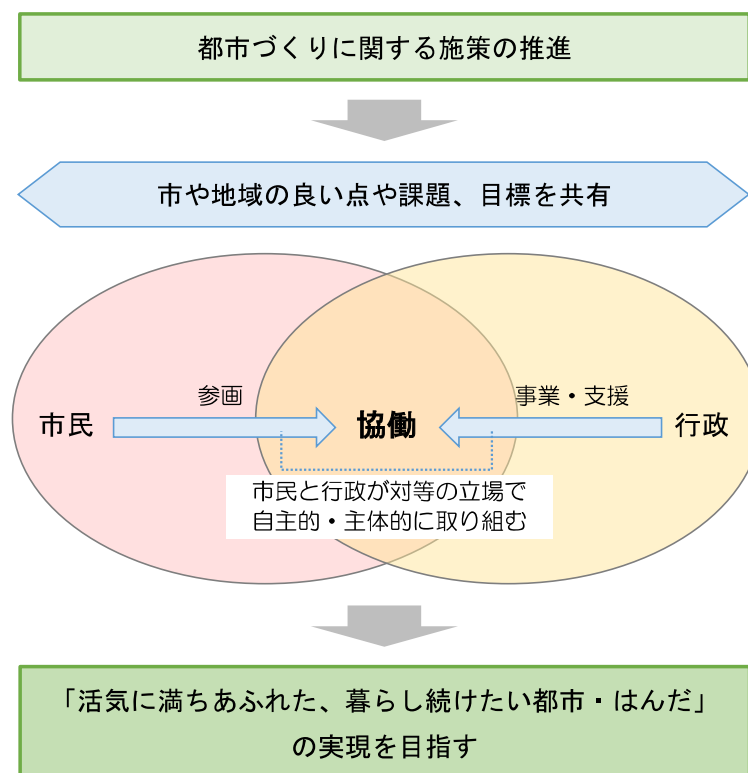


1 都市づくりの進め方



本市では、都市づくりの基本理念である「活気に満ちあふれた、暮らし続けたい都市・はんだ」を実現するため、土地利用や都市交通などの各分野の方針に基づき、各種規制・誘導や都市施設整備などを推進していきますが、これらは市民生活に大きな影響を及ぼすため、市民の合意形成や協力が必要です。

このため、本計画における都市づくりの推進にあたっては、市民と行政が暮らしやすい地域づくりのために、お互いの特性（強み）を活かしながら、市全体や地域の良い点や課題、目標を共有し、自主的・主体的に実施すべき取組を一緒に考え、協力して実行することを目指します。



■都市づくりの進め方のイメージ

市民の取組例

よりよい地域づくりに向けた市民の取組の例として、各地域の代表者等の意見も踏まえながら以下のとおりまとめました。

地域づくり・活性化に向けた話し合いや活動

- 地域のための公園や公共交通の整備、歴史・文化・自然の継承・保全の検討
- 地域の賑わいづくりイベントなどの企画・運営
- 歴史・文化などを継承、保全するための活動
- 神戸川などの水辺を活用した四季を感じる花壇づくり

環境美化・維持管理

- 市内の公共施設等の清掃・美化活動である「はんだクリーンボランティア」への参加
- 臨海部(半田中央ふ頭エリア、亀崎海浜緑地エリア、潮風の丘エリア)の自然環境を保全するため「水辺クリーンアップ大作戦」への参加
- 公園の日常的な維持管理



はんだクリーンボランティア

地域の安全確保

- 子どもの登下校時の見守りやあいさつ活動、高齢者世帯への訪問や声かけなど
- 地域全体の防犯のための一戸一灯運動や防犯パトロール
- 地域の防災力を高める定期的な自主防災訓練

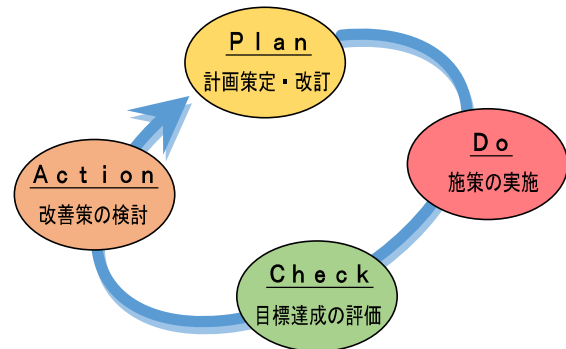


防犯パトロール

2 進行管理

本計画の基本理念である「活気に満ちあふれた、暮らし続けたい都市・はんだ」の実現に向けて定期的に目標の達成状況を評価します。

具体的には、国勢調査や市民アンケート調査の結果等を踏まえるとともに、社会経済状況の変化を注視しながら、中間年次において都市づくりの目標の達成状況を評価し、必要に応じて計画の見直しを行います。評価にあたり客観的な成果指標を設定し、効果的な取組に繋がります。



概ね5年ごとに目標値の検証を含めた中間評価を実施し、必要に応じて計画を見直し効果的な取組を推進

■PDCAサイクルによる計画の推進

■評価指標及び目標値

目標	評価指標	前回の値	現況値	目標値 (2030年度 (R12))
高い利便性を確保し、選ばれる都市づくり	居住誘導区域の人口密度※	54人/ha (2015年(H27))	54人/ha (2020年(R2))	54人/ha
	お住いの地域が住みやすいと思う市民の割合 (満足、まあ満足の合計値)	61% (2019年(R1))	62% (2025年(R7))	64%
安心し、安全に暮らせる都市づくり	公共交通の日平均利用者数※	22,300人/日 【鉄道:21,100人/日 ・バス:1,200人/日】 (2018年(H30))	20,000人/日 【鉄道:19,000人/日 ・バス:1,000人/日】 (2023年(R5))	23,100人/日 【鉄道:21,100人/日 ・バス等:2,000人/日】
	洪水・高潮対策が充実していると思う市民の割合 (満足、まあ満足の合計値)	30% (2019年(R1))	30% (2025年(R7))	35%
活発な経済活動により、人・物が盛んに対流する都市づくり	企業立地件数	13件 (2019年(R1))	15件 (2025年(R7))	19件
	製造品出荷額等	7,620億円 (2018(H30))	11,668億円 (2022年(R2))	13,000億円
歴史・文化を感じ、愛着と誇りがもてる都市づくり	観光入込客数	167万人 (2019年(R1))	157.5万人 (2023年(R3))	198万人
	良好な景観が保全されていると思う市民の割合 (満足、まあ満足の合計値)	18% (2019年(R1))	19% (2025年(R7))	25%

V 都市づくりの進め方

目標	評価指標	前回の値	現況値	目標値 (2030 年度 (R12))
自然との共生によりうるおいと安らぎを感じる都市づくり	市民 1 人当たりの公園面積 (都市公園)	8.53 m ² /人 (2020 年 (R2))	8.98 m ² /人 (2024 年 (R6))	9.00 m ² /人
	地域の自然環境が保全されていると思う市民の割合 (満足、まあ満足の合計値)	19% (2019 年 (R1))	24% (2025 年 (R7))	25%

※居住誘導区域の人口密度：立地適正化計画の目標値を基に令和 12 年度の値を算出している。

※公共交通の日平均利用者数：2024 年 (R6) 以降は路線バス等利用者数に路線バスの代わりに導入する公営タクシー制度などの代替交通手段の利用者を含む。なお、半田市立地適正化計画の目標値を基に令和 12 年度の値を算出している。